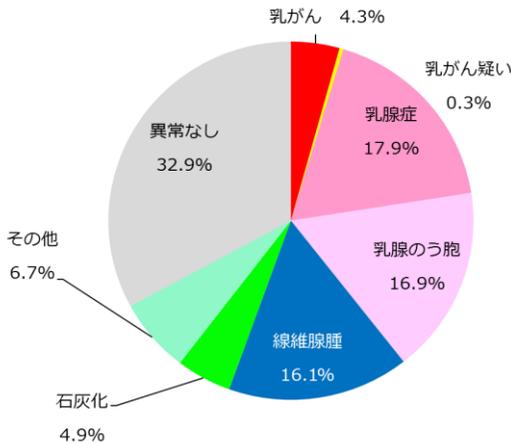


乳がん検診で要精密検査になったら 必ず精密検査を受けましょう！

「乳がん検診で要精密検査になった」ということは、「マンモグラフィやエコーで乳腺を映した画像から乳がんや他の病変の疑いがある」ということ。乳がんは、線維腺腫や乳腺炎の痕など、普通に見られる乳房の病気とよく似た形をしていることがあります。乳がん検診では、これらの良性的病気ががんが識別できない場合も「精密検査が必要」と判定します。



左は精密検査を受けた人の精密検査結果です。
約4%に乳がん。
乳腺炎や線維腺腫などが
がん以外の病気も
見つかっています。



2019年当機構での乳がん検診精密検査受診者(4,443人)の精密検査結果内訳

忘れてた！

聞いてみました！

忙しい！

よくある「精密検査を受けない理由」

自覚症状がないからね～



乳がんは早期のうちには自覚症状がないことがほとんどです。ある程度進行した状態でなければはっきりとした症状は出てこないことが多く、症状を感じるようになった頃にはがんが進行してる事も多いのです。

前も要精密検査で検査を受けたけど、異常なかったから・・・



前回は異常なかったから今回も異常なしとは限りません。検診はあくまで「疑い」なので、結果が出るまできちんと受診しましょう。また、これまでに良性的のしこりと診断されたことがある場合や、乳腺炎の治った痕などはマンモグラフィを受ける度に「要精密検査」となることがあります。そのような場合には、集団検診に向かないケースがありますので、かかりつけの専門医を決めて、定期的にマンモグラフィなどを受けられることをお勧めします。

がんだったら
どうしよう・・・



上の円グラフからも分かるように、精密検査を受診された方の30%は、最終的に「異常なし」と診断されています。せっかく検診を受けたのですから、余分に心配せず精密検査を受けましょう。また、乳がんであっても早期の場合、治療を受ける際の体力的な負担や時間が少なくて済むことが多いです。悩まず、先延ばしにせず、まずは医療機関へ相談してみたいかがでしょうか。

精密検査って何をするの??

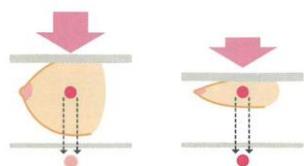
病変が疑われた部位を多方向から詳しく調べます。

1. 視診・触診

視診では、えくぼやただれの有無、乳房の形の左右の差、乳頭からの分泌物の有無を、目で見て観察します。触診では、指で乳房からわきの下を触って、しこりの有無や大きさ、硬さ、動き方などを確認します。

2. マンモグラフィ

マンモグラフィは、病変の位置や広がりを知るために行う乳房専用のエックス線検査です。乳腺の重なりを少なくするために、2枚の板の間に乳房を挟んで圧迫し、薄く伸ばして撮影します。



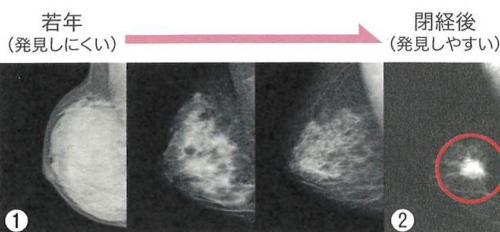
乳房を薄く引き伸ばすことで、少ない放射線で、しこりの影をはっきりと写すことができる。

ぼんやり写る

はっきり写る

エックス線写真像

一般的に、若年者は乳腺濃度が高い場合が多く、エックス線写真で白く写るため(写真①)、病巣(写真②)が発見しにくくなります。



病巣が白く写る。

3. 超音波(エコー)検査

超音波検査では、乳房内の病変の有無、しこりの性状や大きさ、わきの下など周囲のリンパ節への転移の有無を調べます。乳房の表面から超音波を発生する器械(プローブといいます)をあてて、超音波の反射の様子を画像で確認します。

超音波検査では、乳腺は白く、多くの乳がんは黒く写るため、マンモグラフィで高濃度乳房とされる場合は、超音波検査の方が乳がんの発見に役立つことがあります。放射線による被ばくの心配がないため、妊娠中でも検査が可能です。



4. 病理検査(細胞診・組織診・摘出生検)

乳がんの疑いがある場合、病変の一部を採取して顕微鏡で調べ、確定診断するための検査を病理検査といいます。

現在、年に約9万人が乳がんと診断され、約1万4千人が亡くなっています。なんと！乳がんは女性がかかるがんの第1位で、女性は一生のうちに9人に1人が乳がんにかかっている計算になるのです(「がんの統計'21」公財)がん研究振興財団より)

早期乳がんの5年生存率は90%以上です！！

要精密検査の方は、疑いのままにせず、精密検査を受けましょう。

早期発見・早期治療が肝心です。

